

要援護者 円滑避難を

聞き書き

被災地へ

阪神大震災

◆115◆

震災当時は、ガス会社に勤めていました。自宅で就寝中、激しい揺れで跳び起き、家族の無事を確かめてから、バイクで大阪市此花区の勤務先へ。通りかかった尼崎市杭瀬地区では、ガスのおいが強く、「火気には注意してください」と呼びかけて回りました。

勤務先で対応を協議した後、昼過ぎから車で西宮市に向かい、午後4時ごろに到着。約2か月間、神戸市長田区、須磨区などに連日出向き、ガス管の破損状況を調べたり、復旧工事の資材を確保したり。本当に忙しい日々でした。あの日以来、「神戸や阪神間では大地震は起こらない」と信じ切っていました。多くの研究者がそう言っていました。それだけに、大きなショックでした。

3年前、東園田町会の会長になりました。震災で、多くの民家やアパートが全半壊したことを教訓

に、「日ごろから災害に備えよう」と防災講演会や訓練などに力を入れています。今年9月には、70歳以上の高齢者を対象に、災害時の避難に関するアンケートを行いました。1084人に配布、671人から回答がありました。

避難場所を知っている人は77%でしたが、日ごろから避難準備をしていない人が53%もいました。危機感はあるが、準備は不十分という課題が浮かび上がったのです。また、避難の際に「誰かの支援がほしい」、「家族の不在時に支援がほしい」という要援護者が3割。記述欄には「足手まといですが、気にかけておいてください」、「妻の体が不自由なので、緊急の避難は相当難しいと覚悟しています」など。「何かあったら、ここに連絡を」と、便せんや娘さんの連絡先を記した方もいました。

尼崎市東園田町会長 古川 育宏さん 69



△メモ▽東園田町会は1951年に発足。現在、約6700世帯のうち約2600世帯が入会しているホームページ(http://www.shichoukai.com/)もあり、「災害避難アンケート」の結果をはじめ、さまざまな防災情報を掲載している。

災害に強い街へ

地域の連携密に

災害弱者といわれる方々を、結果をもとに、要援護者の登録や、かにしてスムーズに避難させる。災害時の避難についての講演会など、新たな取り組みを進めていき

たいと考えています。

震災で思い知らされたように、災害はいつ、どこで起きるかわかりません。8月末、東園田町は1時間に90ミリの集中豪雨に見舞われ、大きな浸水被害を受けています。町会長として、地域の方々と連携を一層密にし、あらゆる災害に強いまちづくりを進めていかねばと、決意を新たにしています。(聞き手・竹内芳朗)